

西洋帰りの IMARI 展—柿右衛門・金欄手・染付—

Export Imari Ware – Kakiemon, Kinrande, Sometsuke

伊万里焼、2度海を渡る



展覧会情報

- ◇ 名称：西洋帰りの IMARI 展—柿右衛門・金欄手・染付—
- ◇ 会期：2025年4月12日（土）～6月29日（日）
- ◇ 開館時間：10:00～17:00（入館受付は16:30まで）
※金曜・土曜は10:00～20:00（入館受付は19:30まで）
- ◇ 休館日：月曜・火曜
※4月29日（火・祝）、5月5日（月・祝）、5月6日（火・振休）は開館。
5月7日（水）は休館。
- ◇ 入館料：一般 1,200 円 / 高大生 500 円
※中学生以下は入館料無料。
- ◇ 会場：戸栗美術館（東京都渋谷区松濤 1-11-3）
- ◇ 交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩 15 分・地下鉄 A2 出口より徒歩 12 分
京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩 10 分
※当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

※ 画像①～⑥および展覧会ポスターの画像データ等をご用意しております。ご入用の際は、お手数ですが別紙写真借用申請書をお送りください。

◆ 第1章「伊万里焼貿易と里帰り—近世から近現代まで—」(第1展示室)

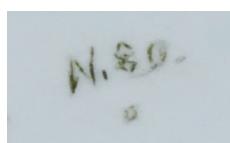


◇ 第1節「オランダ東インド会社による貿易」

17世紀初頭に設立されたオランダ東インド会社は、17世紀中期以降ヨーロッパの国々では唯一、日本との直接的な貿易を担いました。同社の略称「VOC」のマークを有した作例や、出島出土品の類品などを展示いたします。

◀画像① 染付二果文皿

伊万里 江戸時代（17世紀末～18世紀前半）口径 34.9cm
白地に青色で絵付けを施した染付の皿。中央の「VOC」は、オランダ東インド会社の略称を示すマークで、同社の注文によって製作されたことが窺えます。



▲高台内のパレスナンバー

◇ 第2節「近世の王侯貴族たちによる収集」

ヨーロッパの王侯貴族たちにとって、中国磁器や伊万里焼などの高価な東洋磁器を入手できることは、ステータスの一種でした。ドイツのアウグスト強王のコレクションをはじめ、目録や伝世品によって17～18世紀の収集の様子が垣間見える例を、その類品や「色絵花鳥文輪花皿」などからご紹介いたします。

◀画像② 色絵花鳥文輪花皿

伊万里（柿右衛門様式）江戸時代（17世紀後半）口径 22.0cm
白い磁肌を生かして絵画的な絵付けを施した柿右衛門様式の優品。高台内に刻まれた文字（パレスナンバー）から、かつてアウグスト強王のコレクションであったことがわかる貴重な作例。

◇ 第3節「近現代における貿易・収集と里帰り」

19世紀以降、17～18世紀の伊万里焼は“Old-Imari”などの呼び名で輸出・収集の対象となりました。一方で、1970年代頃から日本の高度経済成長を背景に逆輸入、つまり日本に「里帰り」したものもありました。19世紀の輸出向け伊万里焼とともに、古美術品として輸出・収集された17～18世紀の作品およびその類品、里帰り品を展示いたします。

◀画像③ 染付撫子文皿

伊万里 江戸時代（17世紀後半）口径 18.7cm

20世紀後半のイギリスの収集家の旧蔵品で、日本に里帰りした作品。



◆ 第2章「西洋における受容—意匠の踏返しや加工—」(第2展示室)

ヨーロッパでどのような伊万里焼が受容されたかを探る手掛かりとなるものに、ヨーロッパで写されたり、手が加えられたりした一群があります。1700年代初頭のドイツ・マイセンでのヨーロッパ初の硬質磁器の誕生を契機に意匠がヨーロッパ磁器で踏み返されている作例や、金属装飾などの加工痕跡の残る作品およびその種の類品などを展示いたします。



▲画像④

いろえ ばいちくあわうずらもんさら
色絵 梅竹栗鶴文 皿

伊万里（柿右衛門様式）
江戸時代（17世紀後半）
口径 15.1cm

梅に鶴の意匠はドイツ・マイセンをはじめヨーロッパ磁器で盛んに取り入れられました。



▲色絵 梅鶴文 八角鉢

ドイツ・マイセン
18世紀前半
口径 17.5cm



▲画像⑤

いろえ ば たんもん びん
色絵 牡丹文 瓶

伊万里 江戸時代（18世紀前半）
(左) 高 56.9cm (右) 高 58.0cm

金彩を多用した古伊万里金襷手様式の瓶。金属装飾付きの類品がオランダに残り、本作も台座が取り付けられていたような加工痕が高台脇に見られます。

◆ 第3章「西洋文化に合わせたかたちや装飾」(第2展示室)

オランダ東インド会社がヨーロッパ向けに伊万里焼を取り扱うようになると、同社はヨーロッパの生活文化に合った伊万里焼を求めました。カップ&ソーサーやティーポット、大型の沈香壺などはとくにヨーロッパで人気の高かった器種です。



喫茶の風習は16世紀にヨーロッパに伝わり、17世紀に急速に広まったと言います。小杯が把手の無いカップとして、小皿がソーサーとして活躍しました。

▲画像⑥ 色絵 花鳥文 杯・輪花皿

伊万里（柿右衛門様式）江戸時代（17世紀後半）
(杯) 口径 6.5cm (皿) 口径 10.6cm

高い頸を持ち、肩が張り裾が窄まる形状の本体に、帽子の様な鐔を伴う蓋をのせた沈香壺。室内調度品として王侯貴族たちの城館を華やかに彩りました。



いろえ ば たんもん ふたつきつぼ
色絵 牡丹文 蓋付壺

伊万里 通高 70.5cm
江戸時代（17世紀末～18世紀前半）

展覧会紹介文

- ◇ 西洋からの里帰り品をはじめ輸出向けの伊万里焼を展示。(26字)
- ◇ 西洋からの里帰り品をはじめ、器形や装飾などから輸出向けと考えられる伊万里焼を展示する展覧会。優美な柿右衛門様式や華やかな古伊万里金襷手様式の色絵磁器、東洋風の情緒溢れる染付磁器など館蔵品約80点を出展。(101字)
- ◇ 1700年代初頭まで硬質磁器の製作技術を持たなかったヨーロッパでは、1660年代から本格的に日本の伊万里焼を受容した。実用とするほか、王侯貴族たちの城館を飾る室内調度品ともされた。現代まで残るものもあるが、1970年代の日本の高度経済成長を背景として帰国した作品も少なくない。今回の展覧会では西洋からの里帰り品をはじめ、器形や装飾などから輸出向けと考えられる伊万里焼を展示し、貿易の様相を探る。優美な柿右衛門様式や華やかな古伊万里金襷手様式の色絵磁器、東洋風の情緒溢れる染付磁器など館蔵品約80点を出展。(252字)

会期中の催し物

- ◇ 展示解説
 - 4月26日(土)・6月21日(土) 各日14:00～(約45分)
 - 参加費無料(要入館券) □予約不要
- ◇ 特別講演会
 - 「王様と古伊万里」(講師:森由美(当館学芸顧問))
 - 5月24日(土) 14:00～(約60分) □参加費無料(要入館券) □予約不要
※詳細は当館ホームページをご覧ください。
- ◇ ラウンジ&ギャラリー・トーク
 - 「西洋好みの伊万里焼を探る」(講師:当館学芸員)
前半は1階ラウンジにて概説し、後半は2階展示室にて展示解説を行います。
 - 6月2日(月) 14:00～(約120分) □要事前予約 □先着30名様
 - 参加費 一般1,500円(税込)(入館券を別途お求めください)/年間パスポート会員1,200円(税込)
※当日はご予約の方のみご入館いただけます。
 - ※13時30分開館、17時00分閉館です。

同時開催

- ◇ 『江戸時代の伊万里焼—誕生からの変遷—』(第3展示室)
- ◇ 『たなかふみえ作品展』(やきもの展示室)

次回展予告

古伊万里カラーパレット—釉薬編— 2025年7月11日(金)～9月28日(日)



瑠璃釉 瓢形瓶

伊万里
江戸時代(17世紀中期)
高19.5cm

お問い合わせ

公益財団法人 戸栗美術館 広報担当宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤1-11-3

TEL: 03-3465-0070 FAX: 03-3467-9813 E-mail: kouhou@toguri-museum.or.jp

公式サイト: <https://www.toguri-museum.or.jp/>